

主催者あいさつ

大会長

稲垣 武 (いながき たけし)

刈谷市長



大会史上初のオンライン開催となりました「日本女性会議2020あいち刈谷」、ミライク会議は、全国各地から多くの方にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。これもひとえに皆様のご支援、ご協力によるものでございます。心から感謝申し上げます。

昨年3月は、新型コロナウイルス感染症がまさに拡大を始め、市が主催するイベントにも少しずつ影響が出始めた、そんな状況でした。当時はまだ、世の中が一変するこれほどの状況になるとは思ってもよらず、その後続くコロナ禍は、私たちの想像をはるかに超えるものでした。世界中に甚大な影響を与え、東京オリンピック・パラリンピックの延期を始め、本市におきましても万燈祭りやわんさか祭りなど市民の皆様が楽しみにしている伝統行事、恒例行事、数々のイベントが次々と中止となり、地域活動や経済活動など社会活動の多くが自粛を余儀なくされました。

そのような中で「モノづくりのまち刈谷」から「今だからこそ」のメッセージを発信していきたいという想いで、6月にオンラインでの開催を決断し、急激な舵取りで方向転換をいたしました。実行委員会をはじめとする大会関係者はもちろんのこと、参加者の皆様、ご協賛、ご後援いただいた皆様など多くの皆様のご理解、ご協力なくしては実現できませんでした。

おかげさまでミライク会議は、2,300人を超える参加者が、男女共同参画に関する諸課題について様々な視点から、世代を超えて議論を深め、共に語り合うことができました。コロナ禍の現状を踏まえた議論も展開され、「今だからこそ」の内容で、モノづくりのまち刈谷ならではのチャレンジが全国へ発信できたことを大変意義深く感じています。

ミライク会議で得た知識や経験、ネットワークを生かして、一人ひとりが「それぞれの立ち位置で今、できること」を、今後も一つ一つ着実に積み重ねて、次の世代につないでいくことが第37回目の日本女性会議を受け継いだ本市の責務だと考えています。

本市では現在、第3次刈谷市男女共同参画プランの策定に向けて準備を進めています。ミライク会議での大会宣言を、国際的な目標であるSDGsとともに第3次プランにおいて重要な視点として位置づけ、本市における男女共同参画のより一層の推進を図ってまいります。

また、来年度は、ミライク会議の後継事業として「ミライク推進事業」の実施を計画しています。ミライクに込められた「自分の“好き”を实践できる選択肢の多い未来を目指す」という想いのもと、世代を超えて人々がつながり、語り合うことができる、ミライク会議の成果を今後も受け継いでまいります。

結びに、ミライク会議にご参加いただいた全国の皆様、ご支援、ご協力いただきました企業・団体の皆様、ご尽力いただきました実行委員会関係者及びサポータークラブの皆様、約3年間の活動の中で関わっていただいた全ての皆様に改めて深く感謝申し上げますとともに、“かけがえのない”一人ひとりが尊重される社会の実現に向けた引き続きのご協力をお願いし、私の挨拶といたします。

主催者あいさつ

実行委員長

山根 真理 (やまね まり)

刈谷市男女共同参画審議会 委員長
愛知教育大学 教授



昨年11月に開催しました「日本女性会議2020あいち刈谷」に、全国から多くの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。実行委員一同、心よりお礼申し上げます。

2020年3月以降の新型コロナウイルス禍のなか、6月の時点でオンライン会議に切り替える決断をし、直前まで試行錯誤しながら開催にこぎつけました。プログラム構成は当初の計画を受け継ぐ形で、基調講演、9つの分科会、記念講演、記念シンポジウムが行われ、最終日にはエキシビションとして「ミライク若者会議」が開催されました。上野千鶴子氏による記念講演は「コロナ禍とジェンダー」にテーマを変更し、100年に一度と言われるバンデミックのなかで、わたしたちが直面している事態をジェンダーの視点で読み解く講演の後、大学生との交流がなされました。お陰さまで盛会となり、合計2,301人（うち学生311人、男性415人）の方々にご参加いただきました。会議の実現のためにご支援、ご協力いただきました皆様に、あらためましてお礼を申し上げます。

会議ではそれぞれのプログラムに「かけがえのない“わたし”を生きる ～ものづくりのまちから発信」のテーマが共有され、『『生活と仕事の調和』の創造』『多様性の尊重』『世代をつなぐ』の三つのコンセプトを受けとめて展開されました。会議を終えてあらためて、男女共同参画の基本は「人権」であり、性別、性的指向、性自認、国籍、年齢、障がいの有無などを問わず、一人ひとりのかけがえのない“わたし”が大切にされ尊重されることが根本にあることを確認しました。ジェンダー平等は性別、年齢等を問わず全ての人が自分自身の人生を豊かにする土台です。

また会議を通して、ライフとワークの新しい関係、地域での繋がり方、生活を中心にした防災のあり方、多様性尊重を可能にする環境を創ることなど、新しい共生の形を創造する道筋が見えてきたことも大きな収穫でした。

第37回日本女性会議2020あいち刈谷をファーストステップに、ジェンダー平等と人の多様なあり方、考え方が尊重される地域社会の実現に向けた「まちづくり」とネットワークの構築を、SDGsによって展開される多様な取り組みとも連帯しながら、すすめていきます。その思いをこめて、日本女性会議のバトンを甲府市に引き継ぎました。

最後になりますが、「日本女性会議2020あいち刈谷」に連なる全ての皆様の、今後のいっそうのご活躍をお祈りするとともに、この報告書がジェンダー平等社会の実現への一助となることを願い、ご挨拶とさせていただきます。